

ロがよく使われています。一太郎とかワードとかいうワープロソフトです。パソコンのワープロからは、もっと簡単にテキスト形式文書にできます。保存するときに、「テキスト保存」を選択すればすむソフトでは、そのとおりすれば一件落着です。ウインドウズ95で動かししている機種では、ファイルの種類をさいてきますので、3角のボタンをクリックして、ボックスから「テキスト」を選び出して

保存します。パソコンの場合は、テキスト用のフロッピーを別に用意する必要がないので便利です。

ということで、どんなワープロでもパソコンワープロでもかまいません。テキスト形式のフロッピーでご投稿下さることだけをお願い致します。「弘法は筆を選ばず」という諺がありますが、編集者はワープロを選びません。

卒業50周年に想う

貝山 久子

1997年10月17日、母校創立にゆかりの深いお茶の水のガーデンパレスで、私共の卒業50周年同期会が11名の恩師をお迎えし、114名の同期生が集まってなごやかに且つ盛大に行われた。ここに云う私共とは、昭和22年3月25日に母校を巣立った東京女高師の文科・理科・家政科・体育科、東京女子臨時教員養成所(昭和16年から23年までの設置)の理科・家政科・体錬科、東京特設中等教員養成所(昭和15年から7年間戦争未亡人のために設置され、2年間の修学年限で女学校の教員となった)の裁縫科の卒業生・修了生のことで、総数263名であった。

当日はロビーで記念撮影の後パーティーの開幕となった。私の開会の辞に続き松本千代栄先生のご挨拶、勝部先生のご発声で乾杯の後、先生方のスピーチ、文科が中心となって各科から写真の提供をうけて編集したスライドは、私共を50年前の日々にタイムスリップさせてくれた。動員先の兵器工場での写真、寮の焼け跡に立つ友、戦後寒い教室を逃れて校庭の陽だまりで伺った講義、物故された先生方、戦後復活した第1回の徽音祭のスナップetc. どれも貴重な青春の一コマであった。

その後、体育科有志によるフラダンスが披露されてお開きとなり、クラス会へ移行したのである。

私が入学したのは戦局にかげりが見えはじめた昭和18年のことであったが、まともに勉強ができたのは1年間だけで、2年生の夏には動員令により各学年各学科それぞれに定められた場所で勤務に従事した。私共のクラスは板場師の造兵が動員先で、夜勤もあるかなり苛酷な労働であった。昭和20年5月25日の空襲で寮が焼失し、その後しばらく付属高女の教室で寝泊まりしたあと動員された群馬県の農村で終戦を迎えたのである。

授業が再開されたのは秋も深いころであったが、その時の期待と不安のいりまじった気持ちを今もまざまざと思い出す事が出来る。

私共の時から戦時中実施されていた半年間のくり上げ卒業が廃止されて3月卒業となった。文部省の指示に従って全国各地にちらばった同級生であったが、やがて年に一度のクラス会を持つようになり、1月15日に泊りがけで集まって語り明かすのが常であった。この語らいの中から戦時中の体験を風化させたくないという意見が出て、構想を練り卒業

後30年たった1978年に、“女子学徒たちの敗戦—東京女高師文科生の記録”という小冊子を出版した。読み返すとしみじみとなつかしく、若さと、よい意味でのエリート意識があるの困難にうち克つ原動力となっていたことを感じる。

元家庭経営学科教授の湯澤雍彦先生は、二度にわたって卒業後50年を経た先輩方の実態調査を行い報告書をまとめられている。第1回目は“お茶の水出の50年—高学歴女性の生活史と老後生活”との表題で1975年に出版された。第2回目は補佐員の古谷恵子氏との共著で、“戦時女高師卒業生のライフコース—教育と戦争の影響を中心に—”という表題で1996年に発行された。この調査対象は私の3級上から1級上までの3学年の人達で、新聞などにも取り上げられたのでご記憶の方もあろうかと思われるが、その骨子は下記のようなもので、これは私共にもそっくりあてはまるのである。

- ・ 勤務年数が長い。平均24年60%以上が15年以上勤務し、平均年齢70.1歳の現在も25%が就業。
- ・ 結婚率87%、平均96.4%を下まわる。
- ・ 90%以上が経済的に自立、子供の援助にたよっているのは僅か4%。
- ・ 独り暮らし20%、夫婦のみ41%で子供夫婦との同居率47%（平均）と比較して自立度が高い。
- ・ 向学心、勤労意欲がつよく、90%以上が健康に自信をもっている。

等々聞きとり調査をした学生たちをして、「70才は老人とは云えないのではないか」と云わしめている。

このあたりで私の50年にふれてみたい。卒業の直前北朝鮮に抑留されていた父の死が伝えられた。ウソであってほしいとの願いも空しく時が経つにつれてそれは現実のものとなった。卒業と同時に地理学教室の助手となったが、当時の助手は嘱託で給料も少なかったので、1年間共立女子職業学校の講師をした。これが唯一の教職経験である。昭和

57年に退職するまで35年間、女高師から新制大学へ、そしてさまざまな変革を経験したが、私にとって地理学教室はまことに居心地のよい職場であった。その間に結婚もし、2人の娘にも恵まれた。私は子供が3才くらいになるまでは在宅で育てたい希望をもっていたので、中々ふんざりがつかなかったが、同居していた姑が“私が見てあげるから産みなさい”と励ましてくれたので決心した。

57年3月に退職し、5月から(財)地図情報センターの非常勤職員となった。これは当時渡辺光先生が理事長をつとめられていたからでもある。また在職中から役員をつとめていた桜蔭会の松本喜美子会長の御下命で、急遽“お茶の水女子大学百年史”の桜蔭会の章を執筆した。昭和59年に浦和家庭裁判所の調停委員になった。このことについては第27号に欠かせて頂いたので省くが、多くの貴重な体験をつまらせて頂きこの3月で定年を迎える。また昭和61年に桜蔭会の会長に就任し6年間つとめた。その間に2人の娘も結婚し、はじめて夫婦水入らずの生活となった。我々夫婦のモットーは、お互いの立場を尊重し干渉しないことであった。夫は退職後インドネシア語を学び、NGO活動に夢中になり毎年インドネシアに出かけていたが、平成6年肺ガンで亡くなった。

一人暮らしも早3年半になる。勿論淋しいがこの頃では淋しさと引きかえに自由を与えてくれたと思うことにしている。夫の病が篤いときに退職した地図情報センターに平成7年の秋復帰し、機関紙“地図情報”の編集を担当している。一昨年桜蔭会の役員を定年でやめ、埼玉支部長となった。現在は週に一度支部の事務局に出かけ、会員1200名の支部の運営に当たっている。

人間たるもの10年後のヴィジョンが語れないようではいけないと云われるが、古稀をすぎて10年後のヴィジョンを語ることは中々難しい。しかし仮りに10年後生命を長らえているとして、やはり社会との接点をもって生きていたい。とても公表できるようなも

のではないがささやかなヴィジョンをもっている、それに向って進みたいと思っている。

私が現在まずまず恵まれた老後を送ってい

るのは、偏に母校に学び、且つ長期にわたって勤務したお蔭であると思うとき、亡き父母や姑、夫に対する感謝の念を禁ずることが出来ない。

ソグネフィヨルドを訪れて

小池 とみ子

1996年夏、ハーグで開催された国際地理学会に参加した後、デンマーク、ノルウエーと北欧の国々をまわる機会を得た。オスロでレンタカーを借り、山越えてソグネフィヨルドを目指した。ノルウエー最大のフィヨルドの谷間の暮らしの瞥見を報告したい（地図参照）。

<フィヨルドへの旅の始まり>

オスロから北へE16号を進む。道路はU字谷に沿っていて、時々氷河湖が現れる。山がちな地域に入っても道はそれほど急にはならない。少し平地が開けてくると畑が現れる。大麦らしい。スプリレン湖のほと、ネスで小休止。このあたり、じゃがいもの花が咲いている。たまにスプリングラーが回っている。バス停はあるが、バスはほとんど見かけない。あちこちキャンプ場になっている。たまに牛の放牧を見かける。

氷河の谷はだんだん険しくなる。切り立った崖、周りにU字谷、圏谷がよく見える。ヴァンの対岸の山にはじめて氷帽を遠望する。山地の高いところには羊が放牧されている。

4時頃ボルグンの木造教会に着く。1150年頃建立されたというノルウエー最古で最も美しいといわれるもので、世界遺産にもなっている。さすがにここには観光バスが2台来ていた。まわりは小さな木板をぎっしり張り巡らし、するどい屋根の線が天に向かって伸びている。内部は簡素で祭壇があるのみ。なかなかとは思ったが、二人で100クローネ

(2,000円)はあまりにも高い。ノルウエーの木造教会はキリスト教が広まるとともに13～14世紀頃南部の山間地へ移住・開拓した人々によって建てられたもので、19世紀後半生活の厳しさから彼らの半数近くはアメリカへ移住してしまった。山間地に今もいくつか残っており歴史的記念物になっている。

道はレールダールの谷に沿って下る。ようやくソグネフィヨルドの西端に着く。ここをフェリーで対岸に渡り、フィヨルド観光の中心地ソグンダルを経てヘルマンズベルクに宿を取る。ホテルは半島部を占拠していて視界ぐるっと海、暮れなぞむフィヨルドの海はまるで幻想の世界である。はじめてフィヨルドに立つことができた。

<ソグネフィヨルドというところ>

ここでソグネフィヨルドとこの地域の経済について文献によって調べてみよう(John, 1992他)。ソグネフィヨルドは長さ175km、最大水深1,300m、水面からそそり立つ山々は600～700m、谷幅は最大でも5km以下でノルウエー最大のフィヨルドである。沿岸沿い、特に日向斜面の北岸に中世からの村や集落がある。

次にノルウエー農業についてであるが、耕地は90万ha(1994)で耕地率は2.8%にすぎない。経営面積は10ha以下が77%(1972)を占め、小規模農家が多い。作物は、表にみるように干し草が圧倒的に多く牧草が最も重要な作物である。主な農業地域は、沖積層があ